

「近世古地図・絵図コレクション」の概要

徳島大学附属図書館には、200点を越える古地図類（近世古地図・絵図コレクション）が貴重本として所蔵されている。1979年（昭和54）11月9～18日に開催された地図展の際に附属図書館が作成した『日本現代地図展目録 付 徳島大学附属図書館蔵古地図目録』によれば、その内訳は〔徳島〕55点、〔全国〕20点、〔諸国〕49点、〔江戸〕44点、

〔京都〕16点、〔世界〕17点となっている¹⁾（本文末の「古地図目録」参照）。コレクションの概要を簡単に記すと、〔徳島〕・〔諸国〕はその大半が手書彩色図であるのに対して、〔世界〕の多くは中国図や世界（地球）図などの木版色刷図からなる。〔全国〕には、近世期に普及した折本式の板行道中図や手書彩色の伊能図10鋪、伊能図完成版の「大日本沿海輿地全図」（1821年）をもとに1867年（慶応3）に幕府開成所が刊行した「官板実測日本地図」4枚が含まれる。また、〔江戸〕の大半は嘉永年間（1848～1854）の木版刷切図で、〔京都〕は一部を除いて大内裡内の建物差図（写図）が多くを占めている。

このように、同コレクションに含まれる古地図の種類は多様であるが、その中でも、伊能忠敬作成の東半日本図3鋪が揃う「沿海地図」（中図、全6-1～3）同じく西半日本図4鋪からなる「大日本沿海図稿」（中図、全11～14）第7次測量（1809～11年）の成果とみられる「豊前国沿海地図」3鋪（大図、諸国45-1～3）は、いずれも美しく保存状態が良く、精緻な針穴が確認できる優品である。また、慶長・寛永・元禄3期の作成と推定される阿波国大絵図（徳1～3）や、それらと対をなす淡路国絵図（徳44・45）は幕府提出用国絵図の控図もしくは下図とみられるが、いずれも正図を欠くため、幕藩体制下の地方支配を知る貴重な資料である。同様に、現在の兵庫県三原郡西淡町・三原町の一部にあたる一連の村絵図群（徳18～38）もまた、徳島藩政下における村方支配を示すものとして注目されよう。本コレクションにはこの他にも、徳島藩の測量事業のもとに作成されたとみられる実測分間絵図（徳4・5・7・40）や、55点がセットとなった68ヶ国縮写図（諸1-1～4ほか）の一部（33点）もあり、学術上重要な古地図が多数含まれている。

これらの古地図類については、前述した古地図目録が作成されたこともあって、これまで多くの研究者や自治体史編纂に利用されてきた。しかしながら、管見の限り、石原 侑

の短報²⁾を除いてこのコレクションの来歴を語る報告は残されておらず、残念ながら、当時これらの資料を中心となって蒐集されたであろう関係者もすで鬼籍に入っている。筆者は、1997（平成9）～99年度にかけて徳島大学附属図書館が行った所蔵絵図のデジタル

化事業³⁾に携わり、これら古地図類の書誌的情報についての基礎調査を担当した。そこで、この小稿では、附属図書館での基礎調査や県内諸機関での絵図調査を通じて得られたささやかな知見をもとに、これら古地図コレクションの来歴について知り得た範囲で紹介し、向後の利用者の便宜に資することにしたい。

なお、紙幅の関係上、ここでは本コレクションの来歴を紹介するのみにとどめるが、既述のように、コレクションの中には地図学史上貴重な古地図も含まれる。それらの学術的な意義については、本文末に係する研究報告の一覧を掲載したので、そちらを参照していただきたい。また、徳島大学附属図書館ホームページ (<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/>) 上の「貴重資料デジタルアーカイブ」では、主要な絵図を中心に全体画像や拡大画像（いずれも 50～200KB 程度）とともに、筆者がまとめた簡単な解説や書誌的情報も提供している。なお、本稿には必要最小限の情報を掲載した古地図目録を併録したが、これについても今後、基礎調査等にもとづく全データの図書館HP上での公開を目指したい。

所蔵古地図・絵図の受入経緯

徳島大学附属図書館に保存されている『徳島大学学芸学部図書原簿 ～ 』によれば、図書館所蔵の古地図の受入時期はおおむね次のように分類される。

- A 群 1951 年 6 月 30 日 M 氏より購入（阿波国絵図など 128 点）[徳島大学学芸学部図書原簿 受入番号 13280～13384]
- B 群 1951 年 8 月 23 日 M 氏より購入（陸奥国など 34 点）[徳島大学学芸学部図書原簿 受入番号 14900～14933]
- C 群 1953 年 1 月 10 日 自新会より寄贈（伊能図など 19 点）[徳島大学学芸学部図書原簿 受入番号 20988～21006]
- D 群 1954 年 7 月 12 日 前田正一氏より購入（阿波国渭津城之図など 36 点）[徳島大学学芸学部図書原簿 受入番号 52811～52846]
- E 群 受入時期不明（18 点）

このうち、A 群・B 群の古地図は、受入機関である当時の学芸学部図書分館⁴⁾の「備品」扱いとなっている。また、同じく学芸学部図書分館が受入機関となって「自新会」から寄贈⁵⁾された C 群の古地図は、学芸学部図書分館「図書請求書」での「使用位置」が「地理学」となっていることから、書類上は当時の学芸学部地理学教室の備品扱いとみられる。

「自新会」⁶⁾の詳細については不明であるが、自新会によって購入された C 群の古地図には、後述するように、蜂須賀家旧蔵を示す「阿波国文庫」蔵書印が押されている「北京皇城図」(世 4) や「坤輿全図」(世 13) などにも含まれていることから、A 群・B 群と同様に、蜂須賀家の旧常三島別邸倉庫に保管されていた古地図類の一部とみられる。

D 群の絵図類も、学芸学部の「社会科教育」教室に「研究」用として購入されたものであるが⁷⁾、納入者は「前田正一」となっている。名東郡八万村（徳島市八万町）の出身で郷土史家でもあった前田正一（1892～1955）には、徳島城に関する『月のあかり』（阿波郷土会、1955）などの著書があり、D 群の絵図類はそうした郷土図書執筆に用いられた資料の一部とみられる。ただし、D 群の現存絵図（阿波国渭津城之図）は、徳島県庁文書課

に保管されていた原図（徳島空襲によって焼失）を、大正年間に前田正一がトレーシングペーパーに模写した粗拙な写図である。

他方、E群の絵図類は購入図書扱いになっていないため、図書原簿には記載されていない⁸⁾。おそらくは寄贈されたもの（もしくは消耗品扱い）とみられるが、残念ながら、いまのところその来歴は不明である。しかしながら、E群の古地図類の大半（「徳島」関係）はいずれも県南地方にかかわる絵図群で占められることから、石原（1990）が示唆するように、同じく附属図書館に所蔵されている泉山文庫との関連性も想定される。泉山文庫とは、那賀郡長生村本庄（阿南市長生町）の出身で郷土史家として活躍した島田麻寿吉（泉山は号、1874～1947）が旧蔵していた和漢書類で、1951年（昭和26）7月より翌52年2月にかけて9回に分けて附属図書館が購入している。

このように、徳島大学附属図書館所蔵の古地図類の多くは、1951～54年にかけて本学学芸学部によって購入されたものである。とくに、1951年に2回にわたって数多くの古地図を納入したM氏は地元徳島市の美術商で、M氏が扱ったこれらの古地図は、旧徳島藩主元侯爵蜂須賀家の常三島別邸倉庫に当時保管されていた資料の一部とみられる。この倉庫には、蜂須賀家が所持していた藩政文書や後述する阿波国文庫の一部などが収蔵されていた⁹⁾。しかしながら、常三島別邸倉庫に所蔵されていた資料群の一部は戦中・戦後に東京に搬送され、1951年には神田の古本屋を介して売却されている¹⁰⁾。

このうち藩政文書については、その散逸を憂慮した文部省史料館（現在の文部科学省国文学研究資料館史料館）が一括購入を行っていて、史料館蔵蜂須賀家文書には古文書類のほか、阿波国絵図・淡路国絵図や徳島城下絵図などの絵図類が数多く納められている¹¹⁾。

阿波国文庫と蜂須賀家常三島別邸旧蔵の古地図類

徳島大学附属図書館所蔵の近世古地図・絵図コレクションの中には、短冊型二重枠による「阿波国文庫」「不忍文庫」の蔵書印が押されている古地図が含まれる。これらの蔵書印がみられるのは、A・B・C群に含まれる古地図の一部である。このうち、A群に含まれる藩政文書系絵図類（図1・2・3など）およびC群に含まれる伊能図についてはこうした蔵書印は押されていないが、B群の「諸国」絵図34点については「増補改正 河内細見図 全」（諸36）を除くすべてに「阿波国文庫」の蔵書印がある。言うまでもないが、D群・E群の絵図類にはこの種の蔵書印はない。

「阿波国文庫」とは蜂須賀家旧蔵の大集書（約6万冊）のことで、寛政期に活躍した国学者屋代弘賢（1758～1841）の蔵書約5万冊と、阿波藩儒で幕府儒員も務めた柴野栗山（1736～1807）の蔵書約9千冊を中心に収集されたわが国屈指の大名文庫であった¹²⁾。

この中には、貴重な和漢古典本も多数含まれた。屋代弘賢の旧蔵書類については「不忍文庫」の蔵書印が用いられていて、「阿波国文庫」印もあわせて押されている。阿波国文庫の

蔵書の多くは、徳島城内の書庫（不忍文庫倉）と江戸深川にあった蜂須賀家別邸雀林荘内の萬巻楼と呼ばれた土蔵とに分けて保管されていたが、明治維新後に雀林荘の阿波国文庫は国元に送られて一つになり、その後、1869年（明治2）に開校された藩校長久館、1874年開校の期成師範学校（のちの学芸学部）、1879年開校の徳島中学校において阿波国文庫の大部分が保管・公開された。この間、1884年2月に起きた師範学校の火災によって、文庫の一部が焼失したとされる。

1918年（大正7）に徳島県立光慶図書館が創立されると阿波国文庫は同図書館に移管され、1928年には阿波国文庫30,905冊について蜂須賀家との間に保管契約がなされた。しかしながら、光慶図書館が保管していた阿波国文庫の大半は、第二次大戦末期の1945年7月4日の徳島空襲によって焼失し、疎開によって焼失を免れた稀覯本約660冊は1949年に竣工なった憲法記念館（光慶図書館の後身）に収蔵されたものの、翌年3月に起きた憲法記念館の出火によってすべて灰燼と化した。なお、蜂須賀家は維新の際に藩士に対して文庫本を拝領せしめたとも伝えられていて、現在、全国の諸機関や個人が所蔵する阿波国文庫本も少なくない。

こうした光慶図書館／憲法記念館所蔵分とは別に、阿波国文庫の一部は藩政文書とともに蜂須賀家の常三島別邸倉庫に所蔵されていたとみられるが、これらの多くも1951年には業者を通じて売却され四散してしまった。この時に別邸倉庫の資料整理にあたったのが、美術商のM氏であった。蜂須賀家別邸の東側に隣接していた旧徳島師範学校は、1949年5月に徳島大学学芸学部に移管されることになるが、この間戦災復興と新制大学発足に備えてキャンパスを拡大しており、当時徳島市の管理下にあった旧蜂須賀家別邸の地所（戦災焼跡）を徳島市から寄付されている。ただし、焼け残った別邸倉庫1棟は蜂須賀家所有物として存置が認められていた¹³³⁾。

この蜂須賀家別邸倉庫保管資料が1951年に売却されることになるのであるが、その背景には、旧華族制度の廃止にともなう旧大名家の財産処分問題が横臥していたことも看過することはできないであろう。さらに、蜂須賀家の場合には戦後の農地改革によって北海道雨竜郡に所有していた蜂須賀農場を解放しており、また当時の当主による鳥類研究への多額の投資なども、こうした家政の事情に拍車をかけたものと思われる。他方、所蔵資料の処分に際しては、戦後の財政難から県や徳島市も資料の一括受入には応じられず、また既述のように、前年に起きた憲法記念館の焼失といった事情も重なって、県内にはこのような貴重な歴史資料を一括して保管する適当な施設がなかったことも、所蔵資料の散逸につながったといえよう。

なお、同倉庫に保管されていた資料は、売却前には徳島師範学校生徒の授業教材としても利用されていたようなので、学芸学部教員をはじめとする一部の研究者にはこうした資料の存在が知られていたと思われる。また、古地図受入時の学芸学部図書分館長は当時精力的に郷土調査を行っていた地理学担当の岸本実教授であり、こうした経緯からも、別邸倉庫の蜂須賀家資料の売却にあたって、一部の古地図類が学芸学部図書分館に購入されたものと推察される¹⁴⁴⁾。

そうした中で、常三島別邸倉庫に所蔵されていた資料のうち、売却を免れた蜂須賀家文

書の一部が、1994 年 4 月より徳島市立徳島城博物館において保管されている。徳島城博物館保管の蜂須賀家資料は約 1,850 点で、このうち絵図・画図類は約 1,000 点¹⁵⁵⁾にものぼる。その他には、藩主関係の書状や奉書類、参勤旅中日記などの文書類や絵画類などが含まれる。絵図・画図・絵画類の中には阿波国文庫の蔵書印が押されているものも多いが¹⁶⁶⁾、残念ながら、阿波国文庫の中心であった和漢本はこの中には含まれていない。「阿波国文庫」の押印のある古地図類の中には、徳島大学が所蔵している 68 ヶ国縮写図 33 点と同じ様式の題簽が貼られた「諸国」絵図が多数含まれていることから、徳島城博物館保管の古地図類と徳島大学附属図書館が所蔵する古地図類とが、もともと同一蜂須賀家常三島別邸倉庫に収蔵されていたことは確かである。

このように、蜂須賀家常三島別邸倉庫に旧蔵されていた阿波国文庫本の古地図や藩政文書系絵図は四散してしまったが、その多くは現在、文部科学省国文学研究資料館史料館、徳島大学附属図書館(A～C 群)、徳島市立徳島城博物館を中心に所蔵・保管されており、その大半が焼失あるいは散逸してしまった和漢古典本に比して残存率は比較的良好に思われる。

[付記]

本稿を作成するにあたっては徳島大学附属図書館をはじめ、徳島県立文書館・徳島市立徳島城博物館および福原健生・根津寿夫・金原祐樹・松本亀吉・福家健二の諸氏にお世話になった。記して深謝申し上げます。なお、附属図書館所蔵古地図の基礎調査には、当時の院生・学生諸氏(勝藤雅宣、石山武志、長尾 満、大郷真理子、榊原麻貴、三木紀子、小川ゆみ、西澤由美、松田光司、伊藤万里子、埴淵知哉、細田万裕子)が参加した。

[徳島大学附属図書館所蔵の古地図が紹介されているおもな文献一覧(自治体史を除く)]

- 石原 侑(1990): 阿波の古地図、『阿波の交通(上)』編集委員会編『阿波の交通(上)』(徳島市民双書 24)、徳島市立図書館。
- 川村博忠(1984): 『江戸幕府撰国絵図の研究』古今書院。
- 川村博忠(1990): 『国絵図』吉川弘文館。
- 川村博忠(1989): 近世の地図 16 村絵図(那賀郡岩脇村分間絵図)、地理 34-11。
- 川村博忠(1992): 『近世絵図と測量術』古今書院。
- 徳島県教育委員会編(1999): 『徳島県歴史の道調査報告書第一集 讃岐・淡路街道』同会。
- 徳島県教育委員会編(1999): 『徳島県歴史の道調査報告書第二集 伊予街道』同会。
- 徳島県教育委員会編(2000): 『徳島県歴史の道調査報告書第三集 土佐街道』同会。
- 徳島県教育委員会編(2000): 『徳島県歴史の道調査報告書第四集 撫養街道』同会。
- 徳島県立博物館編(1999): 『伊能忠敬が描いた日本』平成 11 年度企画展(9 月 10 日～10 月 11 日開催)図録。
- 徳島県立文書館編(1999): 『阿波の絵図 Part 3 - 分間絵図の世界 - 』第 19 回企画展(8 月 3 日～10 月 24 日開催)パンフレット。
- 徳島市立徳島城博物館編(2000): 『徳島城下絵図』同館図録。
- 徳島大学附属図書館編(1999): デジタルアーカイブ「伊能図の世界」および「阿波・淡路の近世絵図」(附属図書館にて公開)。
- 羽田野正隆(1970): 阿波・淡路両国全図の成立と地図史上の意義(要旨)、人文地理 22-4。
- 羽田野正隆(1970): 淡路分間御国絵図、中村拓監修『日本古地図大成』講談社、所収。
- 羽山久男(1988): 阿波・淡路の国絵図 - 寛文～延宝期の交通史を中心として - 、徳島県立博物館

開設準備調査報告、2.

- 羽山久男(1993): 徳島藩の分間村絵図・郡図について、『徳島地理学会論文集 1993 年』.
- 羽山久男(1994): 江戸時代～明治初期の阿波国絵図について、史窓(徳島地方史研究会) 24.
- 羽山久男(1995): 国境縁絵図と元禄度阿波国分郡図、史窓(徳島地方史研究会) 25.
- 羽山久男(1996): 徳島藩の分間郡図について、史窓(徳島地方史研究会) 26.
- 羽山久男(2000): 徳島藩の河川絵図について、吉野川(吉野川学会) 3.
- 平井松午(1994): 阿波の古地図を読む、徳島建設文化研究会編・発行『阿波の絵図』同会、所収.
- 平井松午(1996): 精緻な阿波実測図を作製した岡崎三蔵、三好昭一郎監修『江戸時代人づくり風土記 36 徳島』農山漁村協会、所収.
- 平井松午(1997): 伊能図と阿波・淡路両国絵図 - 本学附属図書館所蔵の古地図、すだち(徳島大学附属図書館報) 56.
- 平井松午(1997): 幕末期における金沢新田の成立と開発過程、吉野川(吉野川学会) 創刊号.
- 平井松午(1997): 近世徳島藩における測量術の展開と分間絵図作成に関する研究、平成 8 年度福武学術文化振興財団報告書、所収.
- 平井松午(1998): 吉野川流域についての地図的情報、丸山幸彦編『デルタにおける古代の開発に関する地図的情報の収集と解析 - 庄図の残る吉野川下流域の場合 - 』文部省科学研究費研究成果報告書、所収.
- 平井松午(2000): 解題(絵図関係) 平凡社地方資料センター編『日本歴史地名辞典 37 徳島県の地名』平凡社、所収.
- 平井松午(2000): 阿波国大絵図、川村博忠編著『江戸幕府撰 慶長国絵図集成 付江戸初期日本総図』解題』柏書房、所収.
- 藤田裕嗣(1997): 阿波国絵図に描かれた吉野川流域、歴史地理学、39-1.
- 船越昭生(1983): 石黒信由の時代の地図作成 - 中央と地方 - 、楠瀬 勝編『石黒信由遺品等高樹文庫資料の総合的研究 第一』文部省科学研究費研究成果報告書、所収.
- 船越昭生(1986): 「十九世紀初頭地方測量家の地図作成 - 石黒信由の場合を中心に - 」、同氏著『鎖国日本にきた「康熙図」の地理学史的研究』法政大学出版局、所収.
- 山住国廣(1986): 阿波の古地図(No. 2・4・6・9・17・18) 朝日新聞(1 月より隔週連載).
- 渡辺一郎(1993): 『伊能忠敬作「日本全図」(伊能図)の所在と現況』私家版.
- 渡辺一郎(1994): 徳島大学附属図書館所蔵の伊能図について、古地図研究、25-10.
- 渡辺一郎(1995): 伊能図の種類と概要、伊能図探求、1.
- 渡辺一郎(1999): 『伊能忠敬の歩いた日本』筑摩書房.
- 渡辺一郎(2000): 『図説 伊能忠敬の地図をよむ』河出書房新社.

[注]

- 1)このほかにも附属図書館には、『東京市史稿』の付図として複製された江戸城下絵図(6 点)および 1874 年(明治 7)の東京大小区分絵図(30 点)や、同じく『大阪市史』付図として複製された大坂城下絵図類(12 点)、国立公文書館内閣文庫所蔵「正保城絵図」の複製図、人文社が編集した『嘉永・慶応 江戸切絵図 全』(1966 年)や『京浪速畿内古地図編』(1970 年)などが、同コレクションと同じ資料室に保管されている。
- 2)石原(1990)はこの中で、徳島大学附属図書館に所蔵されている古地図が、徳島藩所蔵の文書類とともに徳島市南常三島町にあった蜂須賀家の土蔵に保管されていたこと、その中の阿波の村絵図関係を郷土史家島田泉山が収集したものであろうことを示唆している。
石原 侑(1990): 阿波の古地図、『阿波の交通(上)』編集委員会編『阿波の交通(上)』(徳島市民双書 24) 徳島市立図書館、280～291 頁。
- 3)1997 年度は学内教育研究特別経費、1998・1999 年度は文部省科学研究費補助金研究成果公開促進費(データベース)によって高精細デジタル画像のデータベース化を行った。パソコン上での絵図画像の拡大・縮小が可能な高精細デジタル画像については、下記の報告を参照のこと。なお、高精細デジタル画像については、附属図書館で閲覧することができる。
平井松午(1998): 附属図書館所蔵絵図の画像データ公開、すだち(徳島大学附属図書館報) 59.

平井松午(1999): 本学附属図書館所蔵絵図の画像データベース化事業、徳島大学総合情報処理センター広報、6。

平井松午(1999): 超高精細デジタルアーカイブシステムの構築 - 平成10年度文部省科学研究費助成 -、すだち(徳島大学附属図書館報)、61。

岡田恵子(2000): 徳島大学附属図書館における近世絵図史料の超高精細画像化とその利用公開、大学図書館研究、59。

4) 徳島大学は1949年5月31日に、学芸学部・工学部・医学部の3学部をもって創立され、当時は各学部ごとに図書分館を設置していた。このうち、学芸学部図書分館と工学部図書分館は1952年5月2日に常三島分館に統合された。

5) 『徳島大学学芸学部図書原簿』では「摘要」欄に「自新会寄贈」となっているが、納入「金額」も記載されている。

6) 1953年1月の伊能図購入時ならびにその前後に、学芸学部は伊能図の他にも、教育学や心理学、数学、物理学などに関する専門書・外国図書などを自新会より大量に寄贈されている。学芸学部の前身である徳島師範学校は、1945年7月4日の徳島空襲で校舎や図書什物の一切を焼失した。そのため、1949年の新制大学発足前後より敷地の確保・拡充や校舎建築などの施設整備を行っており、その一部には後援会の援助金などを充てている。この「自新会」自体も、施設整備にともなう学芸学部における図書充実事業と関係するとみられる。

徳島大学教育学部同窓会編(1974): 『教学百年』同会、817～821頁。

7) 当時の附属図書館常三島分館「図書請求書」によれば、「社会科教育」教室では前田正一氏よりこの他に、「徳島城山下御屋敷建物配置図」、「徳島城の図(主閣合結記写)」、「徳島公園設計図」、「大礼記念西の丸運動場図」を購入している。

8) そのため、E群の絵図群には、他の古地図にみられる図書分館への受入を示す「徳島大学学芸学部蔵書之印」や受入番号の記載がない。

9) 飯田義資(1951): 『粟之拔穂 巻一』徳島県教育会、111～114頁。

10) 前掲8)。なお、原(1999)によると、1951年7月に東京の4古書店共同仕入れによる東京古典会の売上で蜂須賀家旧蔵の古典籍類の入札が行われ、そのおもな内訳は蜂須賀家関係、屋代弘賢旧蔵国文学・古版本類、漢籍類であったとされる。徳島大学附属図書館に蜂須賀家旧蔵の古地図類が納入されたのもほぼこの時期である。

原 由美子(1999): 幻の阿波国文庫 - ある古記録群の収集と保存 -、西村圭子編『日本近世国家の諸相』東京堂出版、199～242頁。

11) 史料館蔵蜂須賀家文書の点数は約3,000冊、4,000通とされる。詳細は、文部省史料館編『史料館目録 第四集』(1955年)の「蜂須賀家文書目録」および「蜂須賀家文書解題」を参照のこと。

12) 「阿波国文庫」については、前出の飯田(1951)・原(1999)のほかに下記の報告類があり、本稿においても参考とした。

坂本章三(1936): 『阿波国文庫』と『モラエス文庫』、上方(阿波特輯号)、第63号、178～182頁。

藤丸 昭(1977): 阿波国文庫、同氏著『図書館の理念と実践 - 阿波国文庫からの成長 -』原田印刷出版、146～152頁。

藤井 喬(1984): 阿波国文庫目録(写本)の出現と郷土関係書について、ふるさと阿波(阿波郷土会報)、119号、5～9頁。

徳島県立文書館第17回企画展「阿波国文庫と淡路国文庫」(1998年10月27～1999年1月31日開催)パンフレット。

13)前掲4)、820頁。

14)歴代の徳島藩士に関する一次資料として利用されている徳島大学附属図書館蔵「蜂須賀家家臣成立書並系図」も、こうした経緯のもとに収蔵されることになったとみられるが、筆者は未確認。

15)絵図としては、寛永19年(1642)の「阿波の御国御城之画図ひかへ」や元禄年間(推定)の「阿波城下図」、安政年間の「御山下島分絵図」をはじめとする城下絵図、「阿波国大絵図」・「御国画図」や各種江戸図、55組セット68ヶ国縮写図の一部、各国の国絵図類、各種の中国図や世界(地球)図類などが含まれる。また画図類としては、藩の料理方を勤めた大溝熊吉らが描いたとみられる阿波国内の真景図や、全国各地の名所・旧跡の風景画も多数含まれる(徳島市立徳島城博物館編『阿波絵図の世界』パンフレット、1996年)。

16)一部には不忍文庫蔵印もある。

付表 徳島大学附属図書館所蔵絵図目録（抄録）

1) 本目録は、1997（平成9）～99年度に行った所蔵古地図の基礎調査に基づいている。基礎調査では「絵図調査票」に基づいて約30項目をチェックしたが、本目録では紙幅の関係上、最小限の情報を掲載した。また、本目録に収録した古地図（差図を除く）は近世期のものに限り、組図については1点と数えた。

2) 納入時期は、本文中のA～E群に基づいている。

3) 整理番号・図名は、『日本現代地図展目録 付 徳島大学附属図書館蔵古地図目録』のものを原則使用し

4) 法量・作成年代などについては今回の基礎調査に基づいているため、『日本現代地図展目録 付 徳島大学附属図書館蔵古地図目録』とは異なるものがある。

5) 体裁（絵図仕立て）については、下記の分類記号で表記した。

A 一枚もの B 一枚もの折り畳み C 図帖 D 折本 E 巻物 F 軸物 G 立体図 H その他

6) 徳島大学附属図書館では、とくに学術的・文化財的価値が高い古地図や破損の著しい古地図、高精細デジタル画像データや写真複製図を作成している古地図の中には、史料保存の観点から一般公開を制限しているものがある。該当の古地図については 印で示した。

7) 徳島大学附属図書館では、古地図ごとに4×5もしくは8×10インチサイズの分割撮影フィルムから、約500MBの高精細デジタルデータを作成している。 印はそうした分割データから統合画像データを作成しているもの、○印は分割データのものを示している。

8) 徳島大学附属図書館HP（<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/>）の「貴重資料高精細デジタルアーカイブ」ですでに公開している古地図については番号「1」を、2000年度中に同データを新たに追加予定の古地図については番号「2」で示した。

受入時期	整理番号		『日本現代地図展目録 付 徳島大学附属図書館蔵古地図目録』の図名	展開法量		阿波国文庫印	不忍文庫印	体裁	作成年		絵図仕立		閲覧制限	写真複製図	デジタル画像
	記号	番号		縦 (mm)	横 (mm)				和暦 ()は推定	西暦	様式	彩色			

徳島 50点

A	徳	1	阿波国大絵図	2272	1750	×	×	B	(慶長10頃)	1609	手書	彩色		○	
C	徳	2	阿波国大絵図	4250	5040	×	×	B	(元禄13)	1700	手書	彩色		○	
C	徳	3	阿波国大絵図	2840	2625	×	×	B	(寛永18頃)	1641	手書	彩色		○	
E	徳	4	阿波国那賀郡古毛村絵図	670	770	×	×	A	文化11	1814	手書	彩色		○	
E	徳	5	阿波国那賀郡古庄村絵図	1012	1147	×	×	B	文化11	1814	手書	彩色		○	
E	徳	6	阿波国那賀郡椿泊浦の内伊島一名湯島之図	580	400	×	×	B	明治12	1879	手書	彩色		○	
E	徳	7	阿波国那賀郡岩脇村絵図	1020	1529	×	×	B	文化11	1814	手書	彩色		○	
E	徳	8	字限全図那賀郡本庄村地図	265	380	×	×	C	明治初期		手書	彩色			
E	徳	9	那賀郡赤池村絵図	670	770	×	×	B			手書	彩色		○	
E	徳	10	那賀郡沿海図	397	828	×	×	B	天保・弘化頃		手書	彩色		○	
E	徳	11	那賀郡下大野村地籍	650	930	×	×	B	明治17	1884	手書	彩色		○	
E	徳	12	那賀郡榑淵村絵図	1872	2900	×	×	B			手書	彩色		○	
E	徳	13	阿波国那賀郡古毛村川欠地図	770	2290	×	×	B			手書	彩色		○	○
E	徳	14	長川及岡川絵図	1200	4000	×	×	B	安政2	1855	手書	彩色		○	○
E	徳	16	阿波国那賀、海部二郡全図	420	789	×	×	B	幕末		手書	彩色		○	○
E	徳	17	芥原村 中島浦 横見村 領家村 西路見村 原ヶ崎地積	860	930	×	×	B	(享保8頃)		手書	彩色		○	
A	徳	18	西路浦之図	200	280	×	×	B	寛政2	1790	手書	彩色		○	
A	徳	19	西路浦方図	235	340	×	×	B	寛政2	1790	手書	彩色		○	
A	徳	20	佐礼尾村方図	240	345	×	×	B	寛政2	1790	手書	彩色		○	
A	徳	21	鑪村方図	240	340	×	×	B	寛政2	1790	手書	彩色		○	
A	徳	22	口河内村方図	238	347	×	×	B	寛政2	1790	手書	彩色		○	
A	徳	23	中島村方図	235	340	×	×	B	寛政2	1790	手書	彩色		○	
A	徳	24	奥河内村方図	235	345	×	×	B	寛政2	1790	手書	彩色		○	

受入 時期	整理番号		『日本現代地図展目録 付 徳島大学附属図書館蔵古地図目録』の図名	展開法量		阿波国文庫印	不忍文庫印	体裁	作成年		絵図仕立		閲覧制限	写真複製図	デジタル画像
	記号	番号		縦 (mm)	横 (mm)				和暦 ()は推定	西暦	様式	彩色			
A	徳	25	北方村方図	235	350	×	×	B	寛政 2	1790	手書	彩色		○	
A	徳	26	北方村画図	460	530	×	×	A			手書	彩色		○	
A	徳	27	飯山寺村方図	240	430	×	×	A	寛政 2	1790	手書	彩色		○	
A	徳	28	塩濱村方図	238	349	×	×	B	寛政 2	1790	手書	彩色		○	
A	徳	29	塩濱村方図	240	530	×	×	B			手書	彩色		○	
A	徳	30	片田北村方図	334	235	×	×	B	寛政 2	1790	手書	彩色		○	
A	徳	31	片田南村方図	235	340	×	×	B	寛政 2	1790	手書	彩色		○	
A	徳	32	志知川浦方図	235	345	×	×	A	寛政 2	1790	手書	彩色		○	
A	徳	33	志知川浦方図	470	520	×	×	A	寛政11	1799	手書	彩色		○	
A	徳	34	志知川家居	234	345	×	×	B			手書	彩色		○	
A	徳	35	志知川浦西ノ山方図	250	340	×	×	A	宝永 5	1708	手書	彩色		○	
A	徳	36	江尻浦方図	240	600	×	×	A	寛政 2	1790	手書	彩色		○	
A	徳	37-1	江尻浦方図	243	330	×	×	B			手書	彩色		○	
	徳	37-2	江尻浦方図	243	330	×	×	B			手書	彩色		○	
	徳	37-3	江尻浦方図	350	440	×	×	B			手書	彩色		○	
A	徳	38	中島村外13ヶ村合図	235	510	×	×	B			手書	彩色		○	
E	徳	39	阿波国海部郡 従橋村加波坂 牟岐浦 福良絵図	392	3477	×	×	B			手書	彩色		○	○
E	徳	40	勝浦郡分間郡図	1287	1905	×	×	B	文化11	1813	手書	彩色		○	
B	徳	41	重喜様御代由良港の図	530	790	×	×	B	天保14	1843	手書	彩色		○	
C	徳	42	徳島及周边絵図	2460	1280	×	×	B	文久 3	1863	手書	彩色		○	○
	徳	43	徳島及周边絵図	2160	1250	×	×	B	文久 3	1863	手書	彩色		○	○
A	徳	44	淡路国絵図	2051	2673	×	×	B	(元禄13)	1700	手書	彩色		○	
A	徳	45	淡路国絵図	1179	2321	×	×	B	(寛永18頃)	1641	手書	彩色		○	
A	徳	46	淡州灘之図	1940	2360	×	×	B	(嘉永 2 頃)	1849	手書	彩色		○	
A	徳	47	淡州灘之図	1820	2306	×	×	B	(嘉永 2 頃)	1849	手書	彩色		○	
A	徳	48	洲本御山下画図	1454	1935	×	×	B	(享保以後)		手書	彩色		○	
A	徳	49	御城下絵図	1573	1172	×	×	B	(享保12頃)	1727	手書	彩色		○	
E	徳	50	隠密偵察記附図	3738	804	×	×	B			手書	彩色		○	
D	徳	55	阿波国渭津城之図 (55-1～6に各 6 枚ずつの模写図)	..	..	×	×	H	寛文5	1665	手書	彩色		○	

全国 8 点

	全	1	大日本道中行程細見記	190	8519	○	×	D	明和 7	1770	銅版	彩色			○
B	全	2	大日本国全備図、改補	610	1090	○	×	B			木版	彩色			
A	全	3	路程便覧、増訂	740	1020	○	○	B	嘉永元	1848	木版	彩色			
A	全	4	大日本輿地便覧 乾	260	360	×	×	D	天保 5	1834	木版	墨書			
A	全	5	大日本輿地便覧 坤	260	360	×	×	D	天保 5	1834	木版	彩色			
C	全	6-1	沿海地図 上	1850	2470	×	×	B	文化 1	1804	手書	彩色			○
	全	6-2	沿海地図 中	2171	1868	×	×	B	文化 1	1804	手書	彩色			○
	全	6-3	沿海地図 下	1855	2169	×	×	B	文化 1	1804	手書	彩色			○
C	全	7	官板実測日本地図 (北蝦夷)	2070	830	×	×	B	慶應 3	1867	木版	彩色			○
C	全	8	官板実測日本地図 (蝦夷諸島)	1573	2017	×	×	B	慶應 3	1867	木版	彩色			○
C	全	9	官板実測日本地図 (山陰 山陽 南海 西	1940	1430	×	×	B	慶應 3	1867	木版	彩色			
C	全	10	官板実測日本地図 (畿内 東海 東山 北	2270	1605	×	×	B	慶應 3	1867	木版	彩色			

A	全	11	大日本沿海図稿（五畿 東海）	1292	1723	×	×	B	（文化8頃）	1811	手書	彩色			○
受入時期	整理番号		『日本現代地図展目録 付 徳島大学附属図書館蔵古地図目録』の図名	展開法量		阿波国文庫印	不忍文庫印	体裁	作成年		絵図仕立		閲覧制限	写真複製図	デジタル画像
	記号	番号		縦（mm）	横（mm）				和暦（ ）は推定	西暦	様式	彩色			
A	全	12	大日本沿海図稿（山陰 山陽）	1355	1722	×	×	B	（文化8頃）	1811	手書	彩色			○
A	全	13	大日本沿海図稿（南海）	1140	1515	×	×	B	（文化8頃）	1811	手書	彩色			
A	全	14	大日本沿海図稿（西海）	1910	1706	×	×	B	（文化8頃）	1811	手書	彩色			○

諸国 48点

B	諸	1-1	陸奥国（南部）	400	810	○	×	A			手書	彩色			
	諸	1-2	陸奥国（会津 大沼）	390	405	○	×	A			手書	彩色			
	諸	1-3	陸奥国（棚倉 十二春 若松 白川 二本松）	400	680	○	×	A			手書	彩色			
	諸	1-4	陸奥国（福島 白石 一ノ関）	405	750	○	×	B			手書	彩色			
A	諸	2	仙台領式拾壹郡之図	580	1060	○	○	B			手書	彩色			
B	諸	3-1	出羽国（最上 上五郡）	600	670	○	×	B			手書	彩色			
	諸	3-2	出羽国（秋田 下七郡）	595	670	○	×	B			手書	彩色			
B	諸	4	下総国	393	534	○	×	B			手書	彩色			
A	諸	5	下総国	1920	1668	○	○	B			手書	彩色			
A	諸	6	下総国	1410	1357	○	○	B			手書	彩色			
B	諸	7	安房 上総国	390	535	○	×	B			手書	彩色			
B	諸	8	上野国	400	537	○	×	B			手書	彩色			
B	諸	9	下野国	405	540	○	×	B			手書	彩色			
A	諸	10	関八州細見之図	195	128	×	×	B	嘉永 2	1849	木版	彩色			
A	諸	11	関八州絵図	1887	1960	○	○	B			手書	彩色			
A	諸	12	関東筋川並内郷絵図	1642	1987	○	×	B			手書	彩色			
B	諸	13	武蔵国図	834	1028	○	×	B	文化 8	1811	手書	彩色			
A	諸	14-1	豆州岩村御手山絵図	1192	1234	×	×	B			手書	彩色			
	諸	14-2	豆州岩村御手山絵図	1193	1233	×	×	B			手書	彩色			
A	諸	15	相州岩村御手山絵図	1191	1232	×	×	B			手書	彩色			
A	諸	16	駿河国 田中城之図	1102	1397	○	×	B			手書	墨書			
A	諸	17	遠江国	1380	1710	○	×	B			手書	？			
B	諸	18	遠江国	400	410	○	×	B			手書	彩色			
B	諸	19	美濃国	405	540	○	×	B			手書	彩色			
B	諸	20	甲斐国	395	543	○	×	B			手書	彩色			
B	諸	21	飛騨国	406	406	○	×	B			手書	彩色			
B	諸	22	信濃国	542	844	○	×	B			手書	彩色			
A	諸	23	信濃国図	1234	2362	○	×	B			手書	彩色			
A	諸	24-1	越後国大絵図	1453	3017	○	○	B			手書	彩色			
	諸	24-2	越後国大絵図	1345	2985	○	○	B			手書	彩色			
A	諸	25	播磨国輿地全図	1043	1430	○	○	B			手書	彩色			
B	諸	26	播磨国	396	540	○	×	B			手書	彩色			
A	諸	27	但馬	800	1300	○	○	B			手書	彩色			
B	諸	28	但馬国大絵図	852	1027	○	○	B	天明 7	1787	木版	墨書			
B	諸	29	丹後・但馬国	400	542	○	×	B			手書	彩色			
A	諸	30	淀川略図	443	2889	○	○	B			手書	彩色			
A	諸	31	摂州大阪地 増修改正	1575	1445	×	×	B	文化 3	1806	木版	2色			
A	諸	32	文化四年 大阪並処々洪水図	540	770	○	×	B	文化 4	1807	手書	彩色			
A	諸	33	和泉国大絵図 改正	600	1409	○	×	B	安永 5	1776	木版	2色			

A	諸	34	山城州大絵図	1035	1908	×	×	B	安永 7	1778	木版	彩色			
---	---	----	--------	------	------	---	---	---	------	------	----	----	--	--	--

受入 時期	整理番号		『日本現代地図展目録 付 徳島大学附属図書館蔵古地図目録』の図名	展開法量		阿波国文庫印	不忍文庫印	体裁	作成年		絵図仕立		閲覧制限	写真複製図	デジタル画像
	記号	番号		縦 (mm)	横 (mm)				和暦 ()は推定	西暦	様式	彩色			
A	諸	35	河内細見図 増補改正	520	1360	○	×	B	安政 5	1858	木版	彩色			
B	諸	36	河内細見図 増補改正	533	1450	×	×	B	安永 5	1776	木版	彩色			
A	諸	37	佐渡国図	533	786	○	○	B	安永 5	1776	手書	彩色			
A	諸	38	比叡山	1500	1681	○	○	B			手書	彩色			
A	諸	39	美作国絵図	1400	1018	○	×	B			手書	彩色			
B	諸	40	石見国	400	540	○	×	B			手書	彩色			
B	諸	41	周防国	400	540	○	×	B			手書	彩色			
B	諸	42	備後国	400	530	○	×	B			手書	彩色			
B	諸	43	因幡 伯耆 美作 出雲 隠岐	605	820	○	×	B			手書	彩色			
B	諸	44	壱岐 対馬	407	407	○	×	B			手書	彩色			
C	諸	45-1	豊前国沿海地図 1	790	1660	×	×	A	(文化 8 頃)	1811	手書	墨書			○
	諸	45-2	豊前国沿海地図 2	845	1649	×	×	B	(文化 8 頃)	1811	手書	彩色			○
	諸	45-3	豊前国沿海地図 3	985	1660	×	×	B	(文化 8 頃)	1811	手書	彩色			○
B	諸	46	肥後国	605	582	○	×	B			手書	彩色			
B	諸	47	豊後国	405	560	○	×	B			手書	彩色			
B	諸	48	筑前 豊前 筑後 肥前	553	1188	○	×	B			手書	彩色			

世界 16点

A	世	1	唐土歴代州都沿革地図	360	410	○	×	C	寛政 1	1789	印刷	彩色			
A	世	2	大明都城図	774	980	○	○	A			木版	2 色			
A	世	3	清二京十八省輿地全図	338	466	○	×	D	嘉永 3	1850	木版	彩色			
C	世	4	北京皇城図	767	1781	○	×	B	宝暦 3	1752	印刷	彩色			
C	世	5	中国全図	2785	3754	○	×	B	元禄 3	1690	手書	彩色			
A	世	6	東亜大地図	2850	3769	×	×	B	元禄 3	1690	手書	彩色			
B	世	7	地球全図	712	1365	○	×	B	天保 4	1833	手書	彩色			○
A	世	8	地球全図 増補	413	815	○	×	B			木版	彩色			○
A	世	9	萬国地理細図	330	1800	○	×	B	嘉永 4	1851	木版	彩色			○
A	世	10	万国全図; 重訂	1151	1982	×	×	B	安政 2	1855	木版	彩色			○
A	世	11	地球輿地全図	1429	1430	○	×	B	文化 7	1810	木版	彩色			○
B	世	12	萬国総界図	1286	579	○	×	B	宝永 5	1708	木版	2 色			○
C	世	13	坤輿全図	559	1171	○	×	B	享和 2	1802	木版	彩色			○
A	世	14	□蘭新訳地球全図	553	921	○	×	B	寛政 8	1796	木版	彩色			○
A	世	15-1	坤輿万国全図(写)	1776	675	○	×	B	萬暦壬寅30	1602	手書	彩色			
	世	15-2	坤輿万国全図(写)	1772	674	×	×	B	萬暦壬寅30	1602	手書	彩色			
	世	15-3	坤輿万国全図(写)	1777	674	×	×	B	萬暦壬寅30	1602	手書	彩色			
	世	15-4	坤輿万国全図(写)	765	675	×	×	B	萬暦壬寅30	1602	手書	彩色			
	世	15-5	坤輿万国全図(写)	1774	670	×	×	B	萬暦壬寅30	1602	手書	彩色			
A	世	16	地球図	560	920	○	×	B	寛政4	1792	銅版	彩色			○

京都 4点

A	京	11	細見京絵図大全 天保改正新增	732	1047	×	×	B	天保年間		木版	彩色			
A	京	12	京町絵図細見大全	1798	1446	○	×	B	天保2	1831	木版	墨書			
A	京	13	京大絵図 増補再版 北山ヨリ南三条マデ	922	1229	○	×	A	寛保4	1744	木版	墨書			
A	京	14	京大絵図 増補再版 北三条ヨリ南伏見迄 坤	930	1243	○	×	B	寛保4	1744	木版	墨書			

A	京	16	中昔京城之図	130	755	○	×	H	宝暦3	1753	手書	彩色			
---	---	----	--------	-----	-----	---	---	---	-----	------	----	----	--	--	--

受入時期	整理番号		『日本現代地図展目録 付 徳島大学附属図書館蔵古地図目録』の図名	展開法量		阿波国文庫印	不忍文庫印	体裁	作成年		絵図仕立		閲覧制限	写真複製図	デジタル画像
	記号	番号		縦 (mm)	横 (mm)				和暦 ()は推定	西暦	様式	彩色			

江戸 43点

A	江	2	寛永年中江都図	1122	926	×	×	B	寛永年間		手書	彩色			
A	江	3	慶應改正東京大絵図	1330	1200	×	×	B	慶應 3	1868	木版	墨書			
A	江	4	懷中番町絵図全 改正	633	451	×	×	B	嘉永 4	1851	木版	彩色			
A	江	5	京橋南芝口橋ヨリ築地鉄砲州辺図	448	635	×	×	B	嘉永 2	1853	木版	彩色			
A	江	6	四谷御門外大木戸大番町辺図 改正	630	450	×	×	B	嘉永 2	1849	木版	彩色			
A	江	7	雑司ヶ谷 音羽辺図 改正	448	637	×	×	B	嘉永 4	1851	木版	彩色			
A	江	8	小石川辺図 改正	635	449	×	×	B	嘉永 5	1852	木版	彩色			
A	江	9	本所猿江亀戸辺図 改正	634	445	×	×	B	嘉永 4	1851	木版	彩色			
A	江	10	麻布廣尾辺図	637	446	×	×	B	嘉永 7	1854	木版	彩色			
A	江	11	白山 駒込辺図 改正	635	450	×	×	B	嘉永 5	1852	木版	彩色			
A	江	29	大久保外山辺図 改正	633	446	×	×	B	嘉永 4	1851	木版	彩色			
A	江	30	北本所 中ノ郷石原辺図 改正	634	447	×	×	B	嘉永 4	1851	木版	彩色			
A	江	31	赤坂今井辺図	635	447	×	×	B	嘉永 7	1854	木版	彩色			
A	江	32	品川 白金 目黒辺図 改正	633	447	×	×	B	安政 2	1855	木版	彩色			
A	江	33	青山長者丸辺図 改正	634	445	×	×	B	嘉永 4	1851	木版	彩色			
A	江	34	芝高輪 三田白金辺図 改正	640	447	×	×	B	安政 3	1856	木版	彩色			
A	江	35	南本所堅川辺図 改正	447	635	×	×	B	嘉永 4	1851	木版	彩色			
A	江	36	懷中永田町絵図	630	448	×	×	B	嘉永 2	1949	木版	彩色			
A	江	37	外神田下谷辺図 改正	447	634	×	×	B	嘉永 6	1853	木版	彩色			
A	江	38	小石川 牛込小日向辺図 再板	635	447	×	×	B	安政 3	1856	木版	彩色			
A	江	39	上水北小日向小石川辺図	636	447	×	×	B	嘉永 5	1852	木版	彩色			
A	江	40	東都近効図 全	616	813	○	×	B	文政 8	1825	木版	2色			
A	江	41	多摩川 神田両水図	1055	1182	×	×	B			手書	彩色			
A	江	42	番所絵図面	1198	1585	○	×	B			手書	彩色			
A	江	43	分間江戸大絵図	1973	1689	×	×	B	文政12	1829	木版	2色			
A	江	44	分間江戸大絵図	1928	1678	×	×	B	寛政12	1800	木版	2色			